エコアクション21 環境経営レポート 2023年度

(対象期間:2023年4月1日~2024年3月31日)



株式会社 服部精工

目次

		ページ
1.	環境経営方針	1
2.	会社の概要	2
3.	EA一21推進組織図と対象範囲	2
4.	今年度目標と中長期目標	3
5.	環境経営計画	3
6.	環境経営目標、環境経営計画の今年度取組結果	4
7.	個々の結果と評価、次年度の活動計画 ①②電力とLPG使用による二酸化炭素を削減 ③④軽油とガソリン使用による二酸化炭素を削減 ⑤廃棄物の削減、リサイクル率の向上 ⑥水資源使用の削減 ⑦化学物質の適正な管理の確認 ⑧環境に関する改善提案 ⑨その他の取組	5 5 6 7 7 7 8
8.	次年度の環境経営目標と環境経営計画	9
9.	環境関連法規への違反・訴訟等の有無	10
10.	代表者による全体評価と見直し・指示	11
11.	環境コミュニケーション	12

1. 環境経営方針

当社は、油圧機器や建設機械、産業機器の精密部品の製造に当たり、企業の社会的責任として地域社会や地球環境に配慮した生産を通して、全社全員でEMSを構築・維持・向上し、次の事項を実行する。

- (1) 生産活動を通じ、二酸化炭素排出量の削減、水使用量の削減などの省資源、省エネルギーの推進、廃棄物の削減等を行い、積極的に健全な環境の維持向上、汚染の防止に努める。
- (2) 環境に関する法令・規則要求事項を遵守すると共に、関連する社会的要求を尊重する。
- (3) PRTR制度対象物質を適正に管理していることを、定期的に確認するとともに、製品の環境性能の向上を図る。
- (4) 環境経営方針に基づく自主的な環境経営目標を定め、その実現を図り、定期的な見直しにより、EMSの継続的改善を推進する。

2007年12月5日 制定

2019年10月22日 改訂

株式会社 服 部 精 工社長 服部哲也

2. 会社の概要

株式会社服部精工 〒503-2121 岐阜県不破郡垂井町1463					
会社名及び代表者氏名	株式会社 服部精工				
	取締役社長 服部 哲也				
環境管理責任者	総務部長 服部 蘭子				
連絡先	電話:0584-22-2155 FAX:0584-22-2154				
	info@hattori-seiko.co.jp				
事業活動	油圧機器及び建設機械の精密部品加工				
事業規模	資本金 50,000 千円				
(2024年3月31日現在)	床面積 4,150 ㎡				
	敷地面積 13,500 ㎡				
	従業員数 49 名(うち正規従業員 44 名)				



3. EA-21推進組織図と対象範囲

•産業廃棄物の適正な管理

代表者 認証登録範囲 全組織、全活動、全従業員を対象にしております 取締役社長 環境経営方針の決定 環境管理責任者の任命 ・システムの評価と見直し EA-21委員会 工場 ・必要な指示をEA-21責 任者に行う 全従業員 委員長:社長 委 員:EA-21責任者 管理部長 各グループのリーダー EA-21委員会での審 議事項を順守し、EA-EA-21責任者 EA-21事務局 21責任者、事務局の ・環境経営方針、環境経営目標を 総務部長 EA-21責任者·管理部長·総務部員 指示に基づき行動す 従業員へ周知する 法規制を遵守する ・環境経営目標と方 ・環境経営システム実務全般 ·緊急事態発生対応、報告 針の策定 環境関連法規の遵守状況確認 教育訓練の実施 教育訓練計画の策定 ・環境負荷の管理 ・環境経営文書類作成のための 各種報告書の作成 数值管理 ・外部からの問い合 ・緊急事態の是正と予防 わせ対応 ・内部監査からの報告に対応

4. 今年度目標と中長期目標 (2023年~2027年)

* ①②⑤⑥は、生産量によって二酸化炭素の排出量が左右されるので、1,000工数当りの原単位で管理をしている。

TIII 1	21,75,14		今年度	来年度	2年後	3年後	4年後	
環境経営目標と 指標	単位	基準値 (2020~2022年度平均)		2023年度 計画	2024年度 計画	2025年度 計画	2026年度 計画	2027年度 計画
①電力の二酸化炭素排 出量削減	Kg-CO2	1000工数あたり 6,300	1000工数あたり	6,490	6,486	6,483	6,480	6,477
②液化石油ガス(LPG)の 二酸化炭素排出量削減	/1000工数	1000工数あたり 196	0.10%削減	0.15%削減	0.20%削減	0.25%削減	0.30%削減	
③軽油の二酸化炭素排 出量削減	Kg-CO2	※倉庫外務グループ 独自の目標通り 年間5,263	年間総量	6,787	6,784	6,781	6,777	6,774
④ガソリンの二酸化炭素排出量削減	Ng-GO2	※倉庫外務グループ 独自の目標通り 年間1,531	6,794	0.10%削減	0.15%削減	0.20%削減	0.25%削減	0.30%削減
5 —1)	t	1.0	160	1.956	1.955	1.954	1.953	1.952
廃棄物の削減	/1000工数	1.960		0.20%削減	0.25%削減	0.30%削減	0.35%削減	0.40%削減
5-2	%	90	60/	89.80%	89.85%	89.90%	89.95%	90.00%
リサイクル率の向上	70	89.6%		0.20%向上	0.25%向上	0.30%向上	0.35%向上	0.40%向上
⑥水資源使用量の削減	m³	18		17.96	17.95	17.93	17.91	17.89
◎ 小頁/赤皮用重♡門/峽	/1000工数			0.20%削減	0.30%削減	0.40%削減	0.50%削減	0.60%削減
⑦化学物質の適正な管 理の確認	_	_				毎月1回 確認実施		
8環境に関する改善提 案	_	-				毎月3件	+合床 N 扱 か 。	

※軽油・ガソリンは倉庫外務グループのみ使用。

5. 環境経営計画 (2023年度)

取組目標	活動項目•取組手順	責任者
①② 電力とLPG使用による二 酸化炭素削減	・(照明) LED化の推進、不要電気消灯の徹底 ・(電源確認)不使用OA機器の電源オフ、または省電カモードに。 ・(空調) 決められた時間と設定温度を守る。 月に1度、フィルター清掃により冷暖房効率の向上 ・(エア漏れ)帰社時はエアを切る。エア漏れの早期修理	社 長
③④ 軽油とガソリン使用によ る二酸化炭素削減	・(運転前) 不要物の積載なし、効率的な運航計画、過積載の禁止 ・(運転時) エコドライブの推進、冷暖房の適切な使用(工場内空調使用条件に準ずる) ・(日常点検)適正な空気圧維持、異常放置の禁止 ・(車両使用)赤帽などの特別便を使用しなくてもよいよう納期遅れや不良発生を防ぐ アウトソースにより自社便での走行を減少させる	管理部長
⑤廃棄物削減とリサイク ルの推進	・(作業時) 作業手順書を遵守し、不具合の削減に努める、設備の日常点検の実施・(廃棄物排出時)分別表に基づいて排出、廃棄物置場の整理整頓清掃の徹底・(リサイクル化) リサイクル先の検討実施、使い捨てウエス使用の削減 通い箱の活用拡大	総務部長
⑥水資源使用の削減	・(手洗時) 最初に水を流さず、洗剤で汚れを落とした後、水ですすぐ ・(トイレ使用時) 使用後にのみ水を流す。 ・(その他) 節水喚起シール表示、切削水のこぼれ帽子、切削水の濃度管理	総務部長
⑦化学物質の適正な管 理	・SDSの確認 ・PRTR制度対象物質の最大保有量の遵守 ・定められた保管庫に保管する	社 長
⑧環境に関する改善提案	・毎月1回 改善提案件数確認実施(月3件) ・改善活動につながる環境教育の実施・受講	社 長

6. 環境経営目標、環境経営計画の今年度取組結果

		₩ 2	基準値		今年度		
	単位		岸旭 2年度平均)	目標値	実績値	目標比 (%)	達成状況
①電力の二酸化炭素排出量削減	Kg−CO₂	1000工数あたり 6,300	1000工数あたり	6 400	6.684	103%	^
②液化石油ガス(LPG)の二酸化炭素 排出量削減	/1000工数	1000工数あたり 196.2	6,496	6,490	0,084	103%	Δ
③軽油の二酸化炭素排出量削減	Kg−CO₂	※倉庫外務ゲループ 独自の目標通り 年間5,263	年間総量	6,787	6,128	90%	0
④ガソリンの二酸化炭素排出量削減	Ng OO2	※倉庫外務ゲループ 独自の目標通り 年間1,531	6,794	0,707	0,120	30%	
⑤一① 廃棄物の削減	t /1000工数	1.960		1.956	1.448	74%	0
⑤-②リサイクル率の向上	%	89.6%		89.80%	97.03%	108%	0
⑥水資源使用量の削減	㎡ /1000工数	1	8	17.96	25.30	141%	×
⑦化学物質の適正な管理の確認	_	_		毎月1回 確認実施	毎月1回 確認実施	100%	0
⑧環境に関する改善提案	_	_	_	毎月3件	毎月平均 3.2件	107%	0

達成状況の見方	0	Δ	×
削減目標 ①~⑤-1、⑥	達成した	努力した	未達成
	100%未満	100~110%未満	110%以上
向上目標 5-2、⑦8	達成した	努力した	未達成
	100%以上	100未満~90%	90%未満

①②電力とLPG使用による二酸化炭素を削減





取組結果の評価

当社でのCO₂排出の最も割合の高い電気については、順次LED、省電力エアコンへの入れ替えを行っている。社員数ならびに残業が減り、工数割になると結果が悪くなる中、大いに健闘したところだが、あと3%削減できれば目標達成だっただけに残念。12月のエアコン利用が多すぎたことから1月開催のEA委員会にて「朝の掃除後にON、退社15分前にOFF」を呼び掛けたが、3月末まで最高気温10度程度の例年にない寒い日々が続いたことから、エアコン使用が結果に響いた形となった。

次年度の取組 (目標 6,486 kgCO₂ /1000工数)

空調服や暖房服を取り入れることで、空調でまかないきれない暑さ寒さに対応する。また、夏季については熱中症防止の観点とCO2削減の観点の両面を鑑み、WBGT暑さ指数にて空調の使用是非を判断するよう検討する。空調の適切な利用がCO2削減の大きな役割を果たすため、これを次年度の最重点項目として取り組むこととする。また、現在照明器具全447台のうち、LED率50%となっているが、次年度中にLED率65%となるよう交換を進める。

③4軽油とガソリン使用による二酸化炭素を削減





取組結果の評価

リフト2台がガソリン車だったところを、1台を電動に買い替えたことで、ガソリン使用量も減り、なおかつ排気ガスのにおいが検査エリアに充満しなくなった。外注先へ行く曜日を従来通り守り、また大阪などへの特別便もなかったため、今年は昨年よりさらに使用量を減らすことができた。反面、電車での訪問が難しい新規取引先へ行ったことから、5月、6月に一時的にガソリンの使用が増えた。ただ全般的に順調に使用量は減少している。

次年度の取組 (目標 6,784 kg-CO₂ ※年間総量)

今年度同様、特別便の発生を極力なくすよう、納期と品質を厳守する。従来通り、外注先訪問は事前に適切なルート選定をし、アイドリングストップ防止、急発進急停車防止によりエコドライブに努める。キャンターは16年、ガソリンのリフトは15年使用しているため経年劣化も考えられる。動作不良がある場合には早めに相談する。

⑤-1 廃棄物の削減





取組結果の評価

当社の廃棄物の80%近くが「金属くず」であり、これは生産量に応じて増減がある。次に多い廃棄物が全体の10%をしめる「油水」であり、こちらも機械稼働時間により廃棄量が増減する。工数のわりに生産量が落ち込んでいるため、今回は良い成績になっている。一般廃棄物も売り上げの減少にともなってか年々その量は減少しているが、割合で見ると、一般廃棄物に占める可燃ごみの割合が過去5年で最も高かったことが残念だった。油しみのダンボールが可燃ごみに回るようになったことが影響したと思われる。

次年度の取組 (目標 1.955 / /1000工数)

油しみのダンボールを極力出さないような工夫ができないか、また、可燃ごみに多く占める「使い捨てウエス」を半減させられないか、各グループで検討したい。2023年度に購入した使い捨てウエスは600kgある。これを半減させることで廃棄物を300kg(可燃ごみの約7%)を減少させられることから、喫緊の課題として強く推し進めたい。

⑤-2 リサイクル率の向上





取組結果の評価

今年度最も大きな成果となったのが、再資源化されていないと長年認識していた「油水」が、実は再資源化されるということだった。油水処理業者を変更した際に、新業者からの進言で判明した。これにより、全体の10%を占める油水がすべてリサイクル扱いとなることで、リサイクル率が大きく向上することとなった。よって、当社でリサイクルされないものは砥石と可燃ごみのみとなった。

次年度の取組 (目標 89.85%)

リサイクル率の向上には可燃ごみの減少がかかせない。よって、可燃ごみ減少を来年度の最も大きな目標のひとつとする。 具体的には、ダンボールを可燃ごみにせずリサイクルに回せるよう油を染みさせない。使い捨てウエスから脱却し、レンタル ウエスの利用を奨励することを徹底する。以上2点を次年度の大きな目標とすることとする。

⑥水資源使用の削減





取組結果の評価

手洗用の水道用に、エコタイプの水栓ノズルを一部導入した。ただ、年々目標値から離れ、実績値が悪くなっている。突出して悪いのは7~9月であり、工場の屋根に散水しているためである。この散水は年々設置個所を増やしており、朝、放水を始めたら夕方まで流し続けている状況である。排水口を見ていると、1分もしないうちに2Lの器がいっぱいになるため、夏季シーズンはどうしても使用量が増えてしまった。

次年度の取組 (目標 17.95 kgCO₂ /1000工数)

次年度は、間欠で放水できるようなタイマー付きの水栓の購入を検討する。水を流す時間を半分にすれば、1000工数あたりの使用量を20㎡まで削減することが可能となる。ただ、水を流す時間を半分にしたとしても目標達成は難しいため、水を流す時間を3分の1程度にできないか、さらに検討してみることとする。

⑦化学物質の適正な管理の確認、⑧環境に関する改善提案





取組結果の評価

化学物質の適正な管理については、毎月指定化学物質の含まれている全油脂について購入量を把握しており、適切に管理されている状況。ただし近年、指定される物質も増えており、それらの情報を更新していく必要がある。環境に関する改善提案の内容に関しては、作業のロスを省くよう工夫することで、おのずと省エネになる場合が多い。今年度は、用紙の削減や工具変更によるリードタイムの削減などの提案が多かった。

次年度の取組 (目標 毎月3件)

化学物質の適正な管理については、PRTR法指定の化学物質だけでなく、すべての化学物質について適正な管理を行うべく、SDSのさらなる整備とGHSラベル表示を漏れのないように進め、動画の視聴などにより、全社員に化学物質についての啓発を行う。

9その他の取組

緊急事態「油脂の流出」

今年度は油脂の流出はなかった。2021年以降、油脂の流出は発生していない。万が一発生した場合は油とるとるマットなどを使用し即座に除去できるよう、今後も各グループのミーティングにて伝えていく。食堂前廊下に掲示してある緊急事態対応手順に変更はない。

緊急事態訓練「火災訓練」

万が一火災が発生したときには、一刻も早く鎮火させ、有害な化学物質の延焼を食い止める必要がある。2023年6月7日、6月14日と2週にわたり日勤、夜勤ともに訓練を行った。社内には合計41本の消火器がある。訓練では、各設置場所にあらかじめ消火器イラストをテープ留めしておき、火災発生と同時に全社員がイラストを取りに行き、想定された火元にイラストを集結させる訓練を行った。また、避難訓練終了後は消防署様より借用した訓練用水消火器を使い、全員が実際に消火訓練を行った。



安全衛生や環境に関する動画サイトの視聴を定期的に行えるように

2023年8月、社内の共有フォルダ内に、研修用の安全衛生動画を保管する場所を新設した。目的は、1~2か月に1度の頻度で、各グループミーティング時に、動画を各グループ単位で視聴できるようにするため。内容の選定と、ファイルの更新は総務部で行っている。動画の内容は、環境省による脱炭素経営についての動画、厚生労働省による化学物質について、また、災害についてなどさまざまだが、原則として公の機関が提供している動画とし、安全や環境に関する動画としている。

コロナが終わっても自動点灯は継続

照明のスイッチを触らなくても ON OFF ができるように、とコロナ禍に自動点 灯対策を行ったが、通常の生活に戻った今も、自動点灯は継続している。た だ。日中、晴天であれば照明不要の場所に関しては、天気のよい日は人を感 知しても点灯しないようにスイッチをOFFにし、天気の悪い日には自動点灯をさ せるよう、手作り看板にて対応。



有害物質の少ない油脂に使用を変更、油水引き取り業者を変更

油脂取扱業者様よりご提案いただき、有害物質の多い油脂をやめ、有害物質の少ない同等品に変更となる案件があった。また、油水引き取り業者自体を変更したことにより、それまで全廃棄だった油水がすべてリサイクルされることとなり、引き取り業者ごとで処理方法に違いがあることも判明した。

毎月、電力使用量などのデータを振り返る

毎月10日すぎに、社長、部長と従業員代表が労働時間や就業規則などについて定期協議を行っているが、その際、電力使用量などのデータを振り返るようにした。さらに、次月にむけての対策案を話し合い、翌日のリーダー朝礼にて伝達する方法をとるようにした。リーダー朝礼の人員とエコアクション委員会の人員は同じであるため、臨時エコアクション委員会のような形となり、迅速な伝達ができるようになった

リフト用通路と、人用通路を区別

リフト用のシートシャッターの開閉を、自動ではなく、手動にするようにした。これは、シートシャッターに人が近づいた際、人を感知した不要な開閉を防ぐためである。とはいえ、リフトでの往来の際には自動で開閉のほうが便利なため、運転者自身が運転前にシャッターの設定を自動に切り替え、リフトの走行がすべて終了したら手動に戻すルールにした。シートシャッターは全部で4か所あるが、すべてのシートシャッターでこの措置を行い、現在の設定が自動なのか、手動なのかを明確にした。



8. 次年度の環境経営目標と環境経営計画

取組目標	環境経営目標	
①② 電力とLPG使用による二 酸化炭素を削減	6,486Kg-CO2 /1000工数	 (照明) LED化の推進、不要電気消灯の徹底 (電源確認) 不使用OA機器の電源オフ、または省電カモードに。 (空調) 夏季の空調使用条件をWBGTによるものとする。(新) 定期的なフィルター清掃により冷暖房効率の向上 エアコン入替検討 (エア漏れ) 帰社時はエアを切る。 秋季など空調未使用期間にエア漏れの定期的な確認
③④ 軽油とガソリン使用による 二酸化炭素削減	6,784Kg-CO2	・(運転前) 不要物の積載なし 効率的な運航計画、過積載の禁止 ・(運転時) エコドライブの推進 冷暖房の適切な使用(工場内空調使用条件に準ずる) ・(日常点検)適正な空気圧維持 異常放置の禁止 ・(車両使用)赤帽などの特別便を使用しなくてもよいよう納期遅れや不良発生を防ぐ アウトソースにより自社便での走行を減少させる
⑤ 廃棄物削減とリサイクル の推進	リサイクル率 89.85%	・(作業時) 作業手順書を遵守し、不具合の削減に努める 設備の日常点検の実施 ・(廃棄物排出時) 分別表に基づいて排出、 廃棄物置場の整理整頓清掃の徹底 ・(リサイクル化) <u>リサイクル先の検討実施</u> レンタルウエスの奨励 通い箱の活用拡大
⑥ 水資源使用の削減	17.95kg-CO2 /1000工数	・(手洗時) 最初に水を流さず、洗剤で汚れを落とした後、水ですすぐ ・(トイレ使用時) 使用後にのみ水を流す。 ・(その他) 夏季に屋根に流す水を間欠にする(新)
⑦ 化学物質の適正な管理	月に1度確認	・SDSの確認ならびに保管、 ・PRTR制度対象物質の最大保有量の遵守 ・定められた保管庫に保管する
⑧ 環境に関する改善提案	月3件の提出	・毎月1回 改善提案件数確認実施(月3件) ・改善活動につながる環境教育の実施・受講 ・夏季にグリーンカーテンを育てる(新)

9. 環境関連法規への違反・訴訟等の有無

	主な法規則名		遵 守 状 況	
変電設備	■電気事業法	0	該当施設 キュービクル2棟(2007年12月7日届出) 1棟(2009年2月16日届出) 中部電気保安協会による定期保守点検実施、 異常なし。	キュービクル
電力・LPG・軽油・ガ ソリンの使用	■省エネ法	0		
工業用LPガス消費 設備の(990kg容器) 管理	■液化石油ガス法	0	該当施設:工業用LPガスタンク(990kg容器) イワタニ東海㈱による保守点検 2021年4月異常なし 次回は2025年4月	ガスタンク
廃棄物の排出	■循環型社会形成推進基本法 ■廃棄物の処理及び清掃に関する法律・岐阜県産業廃棄物の適正な処理に関する条例 ■垂井町廃棄物の減量及び適正処理に関する条例	0	・マニフェスト完備。 ・収集運搬・処分業者との適正な契約 ・廃棄物置場の表示と分別の徹底 ・廃棄物の飛散・流出・地下浸透の防止 ・知事へのマニフェストの交付報告済	油倉庫
油類の使用(貯蔵)	■消防法(危険物関連) ■不破消防組合火災予 防条例	0	該当施設:油庫 (少量危険物貯蔵 2008年4月17日承認)	産廃保管状況
油類の流出、油水分離槽の管理、バレル研磨剤汚水の排出	■水質汚濁防止法 ■土壌汚染対策法 ■岐阜県生活環境の保 全等に関する条例	0	該当施設: 油庫 1棟 油水分離槽 1箇所 パレル研磨用汚水・汚泥分離槽 1箇所 日常点検実施	
フロンの適正な管理と処分	■フロン排出抑制法	0	・各エアコンは毎月目視点検をし、記録簿保存・7.5kw以上のエアコンについては3年に1回以上専門家による定期点検を実施。(2023年1月27日完了)	油水分離槽
騒音、振動の発生 (コンプレッサー) (研磨機)	■騒音規制法 ■振動規制法 ■岐阜県公害防止条例	0	・屋外騒音、屋外振動調査 (年1回 2023年6月19日昼夜) 夜間2地点で騒音基準値を若干オーバーした。 工務店に依頼して壁隙間を埋めるなど対応済。 ・室内騒音 (年2回 2023年6月19日と12月11日の昼夜) パレル室は第3管理区分のため耳栓要着用	

地域からの苦情・訴訟はありませんでした。

環境関連法規への違反はなく、なお、関係当局よりの違反等の指摘もありません。

2024年6月20日

エアコアクション21責任者 服部 蘭子

10. 代表者による全体評価と見直し・指示

評価日 2024年6月20日

評価者 取締役社長 服部哲也

	項目		環境管理責任者全体評価所見欄
	1	環境目標および目標達成状況	操業が低くなった分、二酸化炭素排出量は年間で650,911kg-Co2となり、前年比17%減となった。 また、水資源は、下記に猛暑対策として、屋根に水道水を散水して利用量が増加した実績値から、目標設定を見直すことを検討すべきである。
	2	環境経営計画の実施及び運営結果	環境活動自体は概ね計画に則って実施できた。また、多くの社員を巻き込んで、小さな活動を地道に取り組むことができ、それなりに結果に反映されたと思われる。
1	3	環境関連法規等の遵守状況	「環境関連法規の取りまとめ及び遵守状況チェック表」記載の如く、法規制等に全て適合している。
見直し関連	4	環境教育•環境緊急対応訓練等	「環境経営レポート」を各グループに配布し、今期の活動結果と来期の計画を周知徹底した。 「緊急事態対応手順」を食堂入口の掲示板に掲示し、リーダー朝礼にて周知徹底を図った。 緊急対応訓練を実施し、配信動画の視聴によって知識の習得に取り組んだ。 SDGsの掲示をして、社員の意識高揚を図った(継続)
情 報	5	外部からの環境に関する苦情や要望等	2008年12月「エコアクション21」認証取得以来、外部からの苦情・クレームは、ない。
	6	環境経営レポートコミュニケーション	地下に埋設の消防水利の水位を確認 地域にゴミステーションの敷地(2カ所)を貸与継続 小学生の通学時、横断歩道の旗当番への駐車場貸与継続
	7	その他 (環境経営マニュアル)	CO2排出量の提示を求めるお客様が出てくるなど、今後も必要に応じて個別に対応が必要になると思われる。 法規制や社会的要求などは変化していくため、常に注意を払う必要がある。

		見直し項目	変更の必要性	指示事項等
	1	環境経営方針	有・〔無〕	従来通りで継続する。
2.代表者	2	環境経営目標	有 無	水資源は夏の気候により変わるため、実績値を考慮した 変更を検討すべきである。
者によ	3	環境経営計画及び 環境経営システム等	有·無	現行の取り組みを継続、強化する。
る	4	環境関連法令	有・(無)	現状で問題ないと認識している。
全体	5	環境経営レポート	有·無	次号は、2025年6月発行予定
評	6	実施体制	有·〔無〕	
価	7	その他	有 • (無)	
・見直し指示	直 し、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		従来からの取り組みよって、効果をあげ SDGsや脱炭素、カ	で前年比で▲20%となり、操業が低下傾向にあった。 みだけでなく、多方面での新たなあらゆる取り組みにたものや、今後の効果が期待できるものがある。 ーボンニュートラルなど、社会の動向を注視し、必 対応していくよう、体制を維持・整備していくべきであ

11. 環境コミュニケーション



敷地内にある地域で利用できる消防水利の水位を確認しました。 (利用実績はありません)



2008年、隣地工事で花壇となった土地に植樹した、さくら・つつじが育っています。







4月下旬には 白くて可憐な花を咲かせます

1年に2度咲く藤棚は、社員の憩いの場となっています。

秋には社員駐車場に多くの葉が落ちます。社員 有志にて清掃しております。



